

ヤコブの手紙4章1～10節

“分裂からの自由、神の平和の中で生きる自由”

みなさん、父の日おめでとうございます！オンラインで参加して下さっている方々を含めて、皆さんお早うございます。

今日も、新約聖書のヤコブの手紙を通して私達の旅をしてまいりましょう。ご承知のことかもしれませんが、ナザレのイエスにはヤコブという名前の弟がおりました。多くの聖書学者は、この手紙を書いた人物こそ彼であると考えていますが、100%明確なことではありません。

ヤコブは時折、この手紙を読む人々を“兄弟姉妹達”（1章2節を例）と呼んでいることから、この手紙はクリスチャンの人々へ書かれたもののように思われます。彼は、この手紙の読み手が、彼らは様々な国の中に散らされているのですが、背景としてユダヤの宗教を理解していると知って（意識して）この手紙を書いているように思えます。その人々は明らかにその信仰の故に迫害されていたからこそ、それぞれの場所にいたのです。ヤコブは、彼らが辛いことに直面する時、信仰に堅く立つことを呼びかけているのです。

彼らは特に、周囲の異なる文化にあって、意地の悪い人達だけではなく、教会内部の分裂による困難に直面していたのです。ですから、彼らに4章1節で、“何故、あなた方は自分達の中で争い、議論をしているのか？”と疑問を呈しているのです。

私達は、このようなことは、神様の愛を知らない、福音のメッセージである罪の結果（報い）から自由にされていない、平和の神様の導きのもとで生きるという決心をしていない、そのような人々の問題だと思うかもしれません。しかし、ヤコブの言葉は、キリストの誠実な弟子でさえ、キリストが私達のために備えてくださった平安の中に生きるために、いまだに激しく、もがき、足掻いていることを示しています。

罪の結果（報い）から自由にされている恵みがありながらも、罪の存在とその力はいまだに実在のもので、私達はこの世界にいる限り、これと戦い続けなければならないのです。

これは私も、皆さんも同じです。そして、これをしている限り、私達は罪からくる罰から自由にされるかもしれないのです。しかし私達は、神様が全ての人のために望んでおられる平安の中で生きること、そのために完全には自由になれないのです。ですから、ヤコブの言葉—神様の言葉—は私達の為であるのです。

それらはまた、多くの分裂がある私達の今日の世界の為にあるのです。

私達は、北朝鮮とその他の国々との間で平和を作り出す努力が過去数週間に行われたのを見てきました。この地域の国家間にある分裂に橋を架けることを、どんなに私達が切実に必要としているかが明らかになりました。私達は、神様の平和を成し遂げるため、完全とは程遠い道具を使われる神様の力に期待しながら、今、このことを祈っています。

私の国の人々の間で、分裂が深くなってきているのを見ることは、アメリカの市民である私にとっては失望することなのです。ジャック・フィリップスというコロラド州でケーキ店を営んでいる男性の話をご存知でしょうか？ 裁判の記録によれば、二人のゲイの男性が彼の職場へやってきて、彼らの同性婚の祝賀のためウェディングケーキの作成を依頼しました。

フィリップスさんは、既に作られて店舗で売られているものは彼らに売ることができるが、クリスチャンとして、ケーキを作ることによって結婚のお祝いをするのは、自分の信念に反するので、できないと断ったのです。

二人は州政府に訴えました。その結果、フィリップスさんは、何週間にも渡ってメディア上で大きな批判を大量に受け、多くの顧客が来店しなくなり、従業員を解雇せざるを得なくなりました。コロラド州の公民権擁護委員会は彼の行動を激烈な言葉で糾弾し、その口調は、彼の行動を、個人の宗教的信念によって奴隷制度やホロコースト（大量虐殺）を擁護したと同様とするほどで、彼の信仰を“軽蔑すべきもの”と呼んだのです。

フィリップスさんは控訴し、本件は最近になって合衆国最高裁判所へ持ち込まれました。裁判所は、フィリップスさんがコロラド州政府から不公平に裁かれ、信教の自由が適切に保護されなかったと結審したのです。多くのクリスチャンはこの判決が信教の自由を支持するものと喜びましたが、しかしながら、この限られた（かろうじての）決定においても、多くの大きな疑問が答えられないまま残ったのです。特に、LGBT（性的少数者を指す言葉。レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシャル（両性愛者）、トランスジェンダー（出生児に診断された性と自認する性の不一致））の人々と他の人々が、それぞれの宗教上の信念に従って生きる個人の自由を尊重しながら、同等の取扱いを受けるためには、どのようにバランスをとったら良いかということについてです。私達は引き続き賢明で公平な議論がなされるように祈る必要があります。

この事件では、私達がどのような分裂に直面しているのかを明確にしています。あるクリスチャンは、フィリップスさんがこのカップルにウエディングケーキを作ることが、よりキリストに倣うことであると感じており、一方、他のクリスチャンは、そのような結論に至るためには、聖書の神様の教えを軽視しなければならないと考えます。ある人達は、フィリップスさんの行動は間違っていると、何故ならば、“我々対彼ら”という雰囲気を作ってしまう、その結果福音を告げ知らせることをより難しくするからだと思っています。

またあるクリスチャンは、フィリップスさんが自身の行動を支持する宗教とは無関係の裁判官達を待たなければならなかったということが間違いだと感じているし、他のクリスチャン達は沈黙を守っているか、積極的にフィリップスさんに反対しています。

多くのキリストに従う者達は、私達の神様がどんなに深くLGBTの人々を気にかけてるか

を、この時代における争いの中で彼らが知ることが、どんなに困難であるかを見て失望しています。

異なる性的指向を持つ人々に対して、神様に従う者らしくなく裁くという態度を取るクリスチャンが居続けるという事実もまた、多くの人を失望させています。なので、ヤコブが書いた分裂の種類（性質）は、私達のものでもあるのです。このような事については、クリスチャンは度々、全くキリストに倣う者のようではなくなる事ができるのです。

聖書は争いと分裂とを区別しているように見えます。人間は異なった個性や優先事項、経験を持っており、それは自然なことです。そしてそのことが、争いの種になり得るのです。そして神様はこのことを奇妙なこと又は悪いこととは思っておられないようです。

争い事は、ストレスが多いことではありますが、人生においては普通（通常）のことです。

争いをなくす唯一の方法は、人との関係を持たないことです。私達の神様は、従う者達に、争い事の苦痛と問題を避けるために深い関係を持たないで本当の感情を表さないで身を引くように教えているのではありません。

むしろ、神様は、争い事を通して、（特定の）社会（コミュニティ）の性質（種類）や神様が私達に望まれている交わりへの神様の指針が、人間関係におけるストレスと緊張を通り抜けて行くことができると私達が知り、私達がどのように行動すべきかを教えているのです。分裂は壊れた人間関係で、神様を非常に悲しませるのです。そしてこれは罪です。これは神様の心を引き裂くのです。ですから、神様に従う者達が争いの中にいる時には、神様は私達にそこから逃げ出さず、それを否定せず、かえって神様にある一致について深く理解しながら対処するよう求めています。十字架を通して私達は、神様と、そしてお互いと、壊すことのできない絆で繋がっています。神様は私達に、一致と平和への深い

決心を持って争い事への対処を学ぶよう求めておられます。そしてそれは、私達の問題を解決して（人々との）関係性から離れないためなのです。私達が初めから私達自身でそのことに打ち込む時（一生懸命に取り組む時）、建設的で生産的な争いが可能となります。それは、私達にお互いの間でより深い関係をもたらすのです。これが人々の間で問題が起こった時の神様の意志なのです。

他の人と健全な関係を築き、それを維持していくためには、私達は、私達の内側ある平和的な関係に反する働きに対し、正直に向き合わなければなりません。アメリカの軍司令官の有名な引用があります。1812年「エリー湖の戦い」の後、オリバー・H・ペリー提督は“我々は敵と遭遇し、全てを捕獲した。（They are ours. 彼らは我々のものだ。）”と勝利の報告をしました。

しかし、ヤコブやウォルト・ケリー（ウォルト・ディズニー社のアニメーター）のような人は他の事実を私達に示すでしょう。“我々は敵と遭遇、敵は私達であると分かった。（He is us.）”

4章1節でヤコブは、私達の内部で戦っている“罪深い渴望”とそれが引き起こす人間関係の問題について述べています。“longings”（切望、渴望）という言葉の元々の意味は、必ずしも罪深いものではありません。それは、何か良いこと、例えば安全、美味しい食べ物、あるいは性交渉のような自然な欲求なのかもしれませんが、私達が間違った方法、あるいは神様を不快にさせるような態度で満足しようとするものでもあります。罪はしばしばそのような形で働くのです。それは、自然であることや、神様が与えてくださった命に係わる部分という形を取りながら、害を与え、破壊的な何かに歪ませるものです。

神様に従う人々に何が起こったのでしょうか？ 2章でヤコブは。“あなた方は殺す～”と言

っています。何で？ クリスマン同士で暴力沙汰？ 聖書の翻訳者はこの部分にすごく葛藤を覚えたことでしょう。誰かが他のキリストに従う者を、ライバル心（競争意識）から文字通り殺害することは可能なのですが、教会の中で人々の間に増悪というものもあったことから、ヤコブは、殺人は心の中から始まる（マタイ5章21～25節）というイエス様の教えやヨハネ第1の手紙で言っている”兄弟姉妹を憎む者は人殺しです。“に注目してこのように書いているのです。

ヤコブは引き続き、2章で ”あなた方は争い、戦ったりします。 自分の欲するものが得られないからです。何故ならば、あなた方は神に求めているからです。“ と言います。言い換えれば、あなた方の持つ人間関係のトラブルは、あなた方が神様との関係において問題があることが原因だということです。これをより肯定的な方法で言うと、人々とのトラブルを克服するための教えとその力は、神様との関係を発展させることにもあるということです。

ヤコブはこのことについて3章で組み立てていきます。”あなた方が何かを求めても、与えられないのは、悪い動機で願っているからです。“ その例をヤコブは、”あなた方は自分の罪深い喜びのために、自分のお金を使いたいと思っています。“と言っています。

神様が時々私達に最も厳しいことをされるのですが、それは、私達が祈りによって求めることを私達に与えることです。私達が神様に願ったことを私達が得られない場合、その理由の一つは、神様が親切なお方だということです。神様は私達が願って得たことが私達にすることをしています。神様は私達が見ることのできる道より、ずっと遠くのところを見ており、私達の最優先の利益を考えておられるのです。ですから、神様の答えが祈りに対して、”ノー“又は”今はまだだめ“という時には、過剰に怒ったり落胆したりしないという知恵を持つべきなのです。

このように答えることによって、どれほどの悲しみやトラブルから神様が私達を救って下さっているか、神様だけがご存知なのです。

ヤコブはここで正直になってきています。4節では”あなた方は神に忠実ではない“と言
い、更に、不貞という言葉を使っています。旧約聖書の多分ホセアのような預言者が、イ
スラエルの人々に彼らが神様との契約を破ったと言った時のことを参照していると思いま
す。この契約は神様と神様に従う者との聖なる約束でした。クリスチャンの結婚における
男女の約束のモデルです。

イスラエルの民は、神様が彼らのために計画した忠実で排他的な神様との愛の関係に生
きることを拒絶しました。ヤコブは、お互いが争うことは、クリスチャンが本当に神様を
愛してはいない、又は、平和に生きるために私達に備えられた神様の計画を愛していない
ことを表していると言っています。ヤコブは私達のことにも述べているのです。痛いです
ね。

私達は、何か大切なものを忘れてしまっているか、若しくは、決して学ばないのか、
このどちらかです。それは（4節）で”世の友になる“ことが、”神様を嫌う“ということ在意
味するということです。皆さんの中で、”何？ 分からない。神様は私達がこの世の中の
人々と友人になることを望んでいないのでしょうか？“と考えた方はいませんか？ いい
え、神様は、望んでおられるのです。

これらの言葉を理解するためには、私達は、聖書の著者（特にヨハネ、ここではヤコ
ブ）が、“この世”という言葉で、ただ単に神様が創造し私達が生きている場所を意味す
るのではなく、特別な方法で使っていることを見る必要があります。ここで言う“この世”
が特別に意味するところは、天国、或いは神様の王国との対比なのです。そこは、神様が
愛する事柄が実際に生じる（起こる）世界であり、物事は正しいのです。しかし、“この
世”においては、そうではありません。

ですから、“世の友となる”という言葉の意味は“自分が第1”という私達の世界で多く見られる態度をとることを意味します。それは自分の優先事項を、トップになるため他の人と戦いながら成功することに設定するということで、自分がどのような人であるか、あるいは、他の人をどう扱うのか、ということには設定しないことです。その意味するところは、より大きく、より強く、より早く、より金持ちにというシステムの一部になることで、そうではない人々の気持ちを踏みにじるような人々とより良い関係を持つことです。それは、より多く持っている、より多く知っている、より多くのことができる、そのような人々が重要であるという考えを支持することを意味します。これに当てはまらない人々は、良くない、だめであるということです。それは、自分が知っていることをすることで、自分の周りの人々から不人気にならない限り、それを正しいと信じることです。そうすると自分はカメレオンになって、自分がどんな人とも同じであるかのように行動することです。（それができると希望し、十分に納得することです。）

これは、単にある種の良いことをして、他のことを避けるといったことではないとヤコブは言っています。それは、もっと深いことであって、自分は誰で、誰のものか、ということを考える過程なのです。それは帰属意識の問題です。私達は、“私は私自身です。”と考えたいのかもしれませんが。私達は（詩人のW・Eヘンリーと共に）“私は自分の運命の主人で、自分の魂の船長だ。”と言うかもしれませんが。しかし、真実なのは、私達は皆、他の人とこの自然界との関係性の中で生きているということです。私達は毎日、私達のまわりの世界へ影響を与え、同時に影響を受けています。私達は何かに、又は誰かに属しています。最後にヤコブは私達に思い起こさせているのです。私達は神様に属しているように行動するのか、この世に属しているように行動するのかをです。この二つは同時にはできません。この二つは違う方法によって生活することなのです。“神様が私達の内に住まわせて下さる霊が、私達をただ神に属するように望んでいるのです。”（4・5節）

なので、もしも、私達がお互いに理解し、受け入れ。支え合うこと、お互いに許しを与え、許しを受けること、これらを真剣に学ぶことを拒否するのであれば、私達は神様サイズの問題を抱えることになるかとヤコブは言っているのです。

ヤコブは箴言3章34節 ”神は誇る者を撃退し、そうでない者を恵まれる。“ と引用しています。

”oppose”（妨害する・反対する・阻止する・撃退する）という言葉は軍隊用語で、神様は、私達に戦闘の例をもってぶつかってきます。誰が勝つことができるでしょうか？ だとしたら私達は何ができるのでしょうか。答えは他の軍隊的なイメージの中にあります。（7節） “神様に従う” 言い換えると降伏するということです。

父親と母親をコントロールしようと叫んでいる二歳児のようになることを止めて、将棋で藤井聡太に勝てると思う昆虫になることを止めて、神様を神様らしく、神様の良き御計画に従って生きること、これに至る自由を見つけることです。いずれにしても、自分が神様になることなんて、うまくできなかったのですから。

この通り道には、三つの大変特別な神様の約束があります。神様は私達に“悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば悪魔はあなた方から走って逃げていきます。”と言っています。私達は、バラ色で明るいだけではなく、壊れていて、辛く、邪悪が現実の世界にいます。私達はこのことをしっかりと見なければなりません、これに打ち負かされてはならないのです。私達は諦めてはならないし、私達自身の感情に従ってはいけません。また周りの人がすることを何でも、単に行ってはならないのです。

これは世界で最も大きな権力を（神様の力）心と身体に持っている人々にとっては、納得の行くことではないのです。私達自身は悪魔を恐れさすことはできませんが、神様はできるのです。

私達が神様の方法で進むことを選ぶ時、私達の生活に実際に作用している悪事は離れて行きます。悪魔は永遠に近寄ってこないわけではありません。ですから私達は恒久的な神様の信頼を必要としています。イエス様の生涯においてでさえこれは事実でした。

私達は試練や誘惑に打ち勝つように意図され作られており、打ち負かされるためにはではないのです。

二番目の約束は、“神様の近くに行く”と言うことで、そうすれば神様は私達の側に来て下さいます。(8節) このことは、神様があなたや私との関係を望んでいるという、単純であるけれど、力強い、人生を変えることができる真実なのです。

神様は、私達に神様と共に、日々を、その瞬間、その瞬間を共に歩こうと招いて下さっています。これこそが、イエス様が私達にマタイの福音書7章7節で語っている“求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすればあなた方のために扉が開かれます。”ということが意味するものです。

イエス様は、知識、成功、又は勝利を見つけようという態度について教えているだけではなくて、神様を求めよと教えているのです。私達がそのようにする時には、確実に、神様を見つけることができます。神様は見つけ出されたいのです。しかし、神様は、私達の自由な選択で求めることが、神様が深く望んでいる愛と信頼関係をかたち作るために必要不可欠であると知っておられるのです。わたしたちは礼拝でよく歌うように「キリストはわたしたちの平和であります。」

神様の近くに行くと言うことは、手を洗って、心を清めるのとおなじようなことで、そしてそれはユダヤの祭司が儀式を行った時にしていたことです。ヤコブはこれらのイメージをユダヤの背景を持つ読み手に重要な何かを伝えるために用いており、それは彼らの伝統の内に神様が人を愛し、強い関係を築きたいと切望しているという事実なのです。

そしてこのことを可能にするため、神様は私達全てに（祭司、ユダヤの人々や小さなグループの人々だけではなく、信じる全ての人）、私達の生活を神様とつなぐ機会を与えられているのです。十字架を通して、身体的だけではなく霊的に、神様は私達に手を洗い、心を清めて神様の御許に行くチャンスを与えてくれています。ここに、私達の救いとその救いがもたらす平和の希望があります。

三番目の約束は10節で “主に跪け。そうすれば主はあなたを引き上げて下さる。”という事です。ヤコブがこのように言っているのは、プライド（誇る事）から生じる、私達自身を一番にしたいという衝動、自分を売り込もうとする意志が人々の間で多くの分裂を起こすことを知っているからです。そして、ヤコブは平和のための技術について実践的なアドバイスを与えるだけではありません。神様は私達の心を知っており、どんなプライドが私達の霊的な生活に深刻な脅威を及ぼすかを見ておられます。それは、神様が私達が持つように設計した健康で活気のある霊的な命の中で成長し、これを食べてしまうがん細胞のようなものです。主は、私達が、尊敬、賞賛、信望を制御（コントロール）する用意ができる時を知っておられます。そして神様は、“引き上げられる”ことが私達にとって全く最悪なことになり得るといふことも知っておられます。何故ならば、私達は、謙遜や感謝を持って、健康的な方法で、他の人からの関心を受けるには、まだ十分成熟していないからです。それは神様が私達が引き上げられることを望んでいないということではなく、むしろ望んでおられるのですが、そうなる時が適切でも、私達が相応しくないことがあるからです。

長い目で見ると、このようなことを神様の御手に委ねるのは私達にとってもより幸せなことなのです。もし私達が他の人からの賞賛を自分のゴール（目標）にするのなら、それは私達の手の中でチリになってしまいます。しかし、もし私達が人生のゴールを、神様と共にある生活を中心にする事としたならば、神様のタイミング、方法、驚くほどの恵みにより、神様は、私達を人々の中で高潔な生活をおくる者として成長させて下さるといふ栄光を得させて下さいます。

今日、私が皆さんにもう一度お伝えしたいニュースは、私達は平和の神様に仕えているということです。神様は、私達の周りの人々から私達を分かち分裂を克服するため私達を助けて下さると約束しています。神様は私達の人生のどの部分においても、また神様の癒しを必要とする一つひとつの関係に対しても、私達を救うことのできる力があります。ですから祈りを持って今、神様の御許へ行きましょう。

愛する父なる神様、「平和を作る者は、平和の種を植える。そうしたならば、その種は良い人生の身をむすぶ」（ヤコブ3章18節）とあなたは教えて下さいました。私達はこれを欲していますが、私達力だけでは得ることができません。ですからあなたに、単純な信仰によって、心から願います。謙遜になれますように、プライドから、妬みから、野心から、壊れた関係と分裂に私達を至らせる全てから自由にされますように。私達を引き上げて、最初にあなたと、そしてあなたが私達の周りに置いてくださった全ての人との間で平和に生きることができるようにして下さい。平和に君、私達の主であり救い主なるキリストの御名によって、アーメン

参考

Bush, L. (May 19, 2014). "The Morphology of a Humorous Phrase: 'We have met the enemy, and he is us.'" Retrieved June 10, 2018 from [<エラー! ハイパーリンクの参照に誤りがあります。> -of-a-humorous- phrase/](#)

Henley, W. E. (1875). "Invictus." Retrieved June 10, 2018 from <エラー! ハイパーリンクの参照に誤りがあります。>foundation.org/poems/51642/invictus

Robertson, A. T. (1960). Robertson's Word Pictures of the New Testament. Rev. ed. Broadman Press. Retrieved June 9, 2018 from <エラー! ハイパーリンクの参照に誤りがあります。>tures/james/james-4-1.html

Supreme Court of the United States. (June 4, 2018). Syllabus, Masterpiece Cakeshop, Ltd., et al. v. Colorado Civil Rights Commission et al. Retrieved June 10, 2018 from https://www.supremecourt.gov/opinions/17pdf/16-111_new_dlof.pdf